

クマとつきあう

～豊かな自然環境を次世代に継承するために～



『 森林の価値とツキノワグマ 』

森林の価値は、木材生産の場だけにあるのではなく、国土保全や水源かん養、大気の浄化、野生動物の生息地、レクリエーションなど、環境を安定させ、人々の命を守るという価値を持っている。森林の持つ生態系としての多様な機能を発揮させ、同時に木材生産の場としての森林を確保することが、21世紀を生きる私たち人間に課せられた使命である。野生動物は、それ自体が森林の多様性を構成する不可欠の要素であるばかりでなく、さまざまな活動を通して、森林の更新や安定性にも寄与している。国民の共有財産として、この豊かな生態系と野生動物を次世代に伝えることはわたしたちの重要な責務である。(『野生動物の生態と農林業被害』・三浦慎吾著・全林協 より抜粋・一部改変)

静岡県くらし・環境部環境局自然保護課

bears DATA

分布：東アジアに広く分布しているが、韓国、中国、台湾などでは絶滅の危機に瀕している。日本では、本州、四国、(九州は絶滅?)に分布しているが、西日本では絶滅のおそれのある地域がある。

身体：頭胴長 110cm～130cm、体重 40kg～130kg(日本動物大百科より)。真っ黒で、胸に白い三日月模様がある(ない個体もある)。視覚は悪く臭覚がすぐれている。聴覚はすぐれているが低い音には鈍感。

食物：春は山菜などの新芽や前年に落下したどんぐりなど、山に餌の少ない夏は草本に加え、イチゴや昆虫、秋はどんぐりや木の実を主な食べ物としている。

生活：単独か母子で行動する。「なわばり」はなく、食べ物が豊富な場所には何頭かが集まることがある。一日中行動するが、早朝や夕方に盛んに動く。冬は樹洞や岩穴、木の根上がりを利用して冬眠する。母グマは冬眠中に出産するが、秋に食べ物が充分とれない年には繁殖をやめる。繁殖率は低い。

被害問題

■林業被害：スギ等の樹皮を爪や歯で剥ぐ「クマハギ」の被害が多い。被害木は商品としての価値が下がる。また全周囲剥がされると枯れる。静岡県では大きな問題であり、現在「有害捕獲」が行われている。

■農業被害・養蜂被害：静岡県では少ないが、果実園やトウモロコシなど他の地域では被害は大きい。

■人身被害：静岡県では近年確認されていない。

■出没：最近、人里での目撃が多くなってきている。

森林の6つの価値

森林には、環境を安定させ、人々の財産と命を守る働きがあります。私たちは森林の恩恵を受けて生活をしているのです。このような森林の価値を理解して、生態系としての森林を守っていかなくてはなりません。

木材生産

国土保全

水源かん養

大気の浄化

野生動物の生息地

レクリエーション

ツキノワグマは、この森林を生息地として暮らしています。ツキノワグマも森林生態系の構成要素として重要な役割を担っているのです。

ツキノワグマの基礎知識



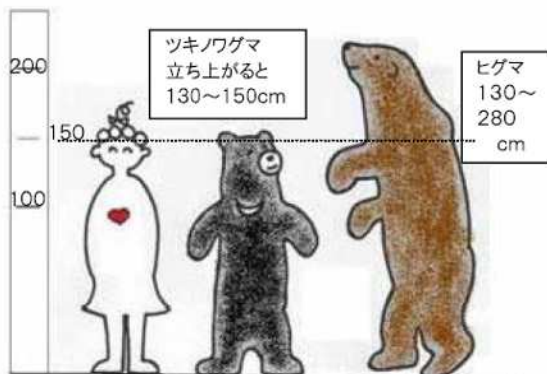
日本のツキノワグマの分布



クマの五感



体の大きさを比べてみよう!



クマの一年



冬眠
1歳の子も一緒に冬眠
冬眠中に出産

冬眠あけ子育て



冬 春
秋 夏
冬眠準備でたくさん食べて太る

子別れ
1歳半になった子は母と別れる繁殖



静岡県のツキノワグマ — 被害と絶滅危惧 —

最近の調査の結果、静岡県には状況の異なる2つの個体群が生息していることがわかりました。



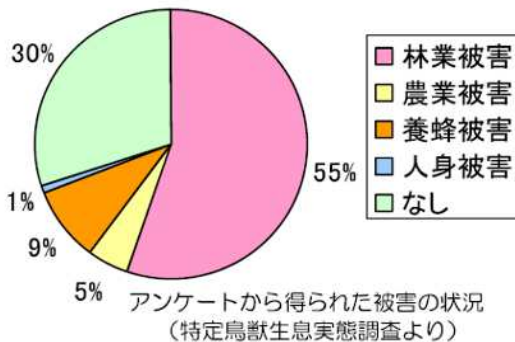
静岡県のクマの分布

南アルプス地域のツキノワグマ

捕獲により一時はずいぶん減ってしまいましたが、今は回復しつつあります。林業被害が重大な問題です。

富士地域のツキノワグマ

他の地域との分断が問題になっていて絶滅が危惧されています。



クマによる被害問題

ツキノワグマによる被害の中で、静岡県では特に林業被害が大きな問題となっています。



被害を受けた人工林の様子 ▶

クマとつきあうための5つの課題

ツキノワグマと私たちがともに生きていくためには、どうしたらいいのでしょうか？
今後、私たちが取り組むべき5つの課題をあげてみます。

1 2 3 4 5

5つの課題

1

調査

クマの状況を把握するためにより詳しい調査が必要です。特に富士地域のツキノワグマは絶滅が懸念されています。

2

被害防除

有害捕獲(奥山放獣)・テープ巻き・荒縄巻き・電気柵設置・トタン巻などクマを殺さずに被害を防いでいく必要があります。

3

システム作り

出没や被害時の対応や普段の出没対策を組織的に行う必要があります。行政・住民・NPO・専門家のネットワークが鍵です。

4

環境整備

クマが出没しにくいような環境を整備する必要があります。藪を刈り払ったり、柿木を切ったり地域の力が必要です。

5

環境教育

より多くの人に、静岡のクマの現状や被害について知ってもらい社会全体でクマとの共存を考える必要があります。

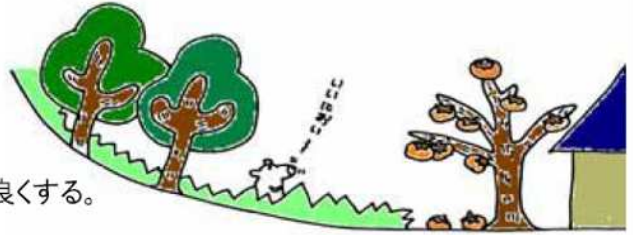
クマに出会わないために

- 山に入る時は、鈴やラジオ・笛を用意して自分の存在をアピールしましょう。
- 残飯などは必ず持ち帰りましょう。
- 早朝や夕暮れはクマがよく動く時間帯です。また雨風の強い日や沢浴いは人間に気がつきにくいので注意しましょう。
- 春と秋の山菜はクマにとっても大事な食料であることを知しましょう。
- キャンプ場などのゴミ捨て場もクマを誘引します。そういうキャンプ場があったら注意してあげましょう。
- クマ避けスプレーを携帯しましょう。(使用法に注意が必要で、過信は禁物です。)



クマの出没対策

- 不要になった農作物、収穫しない果実、落下した果実などは放置したり山に捨てたりしない。
- 収穫した果実類を長期間物置などに保管しない。
- 畑に残飯などをまいて堆肥化することや、コンポストなどもクマを誘引してしまうので行わない。
- 山と接している藪などを刈り払い、見通しを良くする。



クマに出会ってしまったら

ほとんどの場合、クマは人間に気がつけば逃げていきます。クマは人間がとても怖いのです。

- クマとの距離によって対処が違います。
 - ★ 50m 以上離れていたら、落ち着いて音をたてず、反対側に逃げます。
 - ★ 距離が短かったら、刺激ないように落ち着いて、背中をみせず後ずさりします。後ろを向いて走って逃げると追いかけてくる習性があります。
 - ★ 攻撃してきたら、窪地などに腹ばいになり、両手を首筋の後ろでしっかりと組み、両肘で顔を守ります。クマ避けスプレーを使う場合は使用方法に注意しましょう。

